

2003年12月9日

JR東日本グループの「新しい企業広告シリーズ」の展開について

このたび、当社グループでは、中期経営構想「ニューフロンティア 21」に掲げた「信頼される生活サービス創造グループ」としての姿勢を、お客さまをはじめとするステークホルダーの皆様に正しく理解いただき、より良い企業イメージを醸成することを目的とした、新しい企業広告シリーズを展開することとしました。

このシリーズでは、JR東日本グループのビジョン達成に向けた事業戦略について、「安全・安定輸送」「ステーションルネッサンス」「エコロジー」など、テーマ別に取り上げることとしています。

1. 五嶋龍氏の起用について

このシリーズ広告には、ヴァイオリニストの五嶋龍氏を起用いたします。五嶋龍氏は1988年ニューヨーク生まれの15歳。世界的ヴァイオリニスト五嶋みどりを姉に持ち、すでに素晴らしい実績（プロフィール参照）を持ち、「天才ヴァイオリニスト」として将来を嘱望されています。五嶋龍氏は、当社発足約一年後に生まれており、「彼の成長と共に当社グループも一步一步着実に歩んでいきたい」との思いから起用を決定いたしました。

また、五嶋龍氏のニューヨークでのニックネームが「JR」であることにも何かしらの縁があるのでは、と考えています。

2. シリーズ広告展開について

この広告のコンセプトは「くらしに響きを～JR東日本グループ」です。

JR東日本グループが、鉄道事業と生活サービス事業を両輪に、さまざまな社会的な活動を展開していくなかで、相乗効果を発揮させることにより、お客さまをはじめとするステークホルダーの、より豊かな「くらし」を創造していくことを目指しています。五嶋龍氏の奏でる音楽の「響き」に、信頼される生活サービスの創造に向かう当社グループの姿勢を象徴させることで、「くらしの中に響きを提供するJR東日本グループ」を訴えていきます。

シリーズの第一弾は「安全・安定輸送編」。当社の最大の武器である、五方面の新幹線の前で演奏する五嶋龍氏をメインビジュアルに、安全・安定輸送をお客さまに提供すべく日々努めている当社の姿勢を伝えていきます。2003年12月下旬より、テレビCM・新聞広告・駅、車内ポスターを中心に展開してまいります。どうぞご期待ください。

五嶋龍プロフィール

1988年7月13日 米国ニューヨーク生まれの15歳。3歳よりヴァイオリンを習いはじめる。7歳のとき札幌のパシフィック・ミュージックフェスティバルにて、パガニーニのヴァイオリン協奏曲でデビューを飾った。ノースキャロライナ・ユースコンペティションで特別大賞受賞、コネチカットのグニリッチ・ユースコンペティションで優勝。プッチーニ財団のコンサートで器楽奏者として初の特別賞受賞、ニューヨーク商工会議所からも史上初めての奨学金を授与されている。

リサイタルは、2001年に東京カザルスホールにて連続10回のリサイタルの他、メキシコ、ノルウェー、チェコ、シカゴ、ニューヨークで行っている。オーケストラとの共演は、京都市交響楽団、バンベルグ交響楽団、キチナー・ウォーターラー交響楽団、ロンドン・フィルハーモニア、KZNフィルハーモニック、東京都交響楽団、ダラス交響楽団、アメリカン・ユース・シンフォニーなどがあり、指揮者では、ウラディミール・アシュケナージ、ミョン・フン・チョン、佐渡裕、ジョナサン・ノットと共演している。昨年秋にはドイツでオーケストラデビューを果たし絶賛され、この12月にはロンドン・フィルハーモニックとの共演で、イギリスデビューをする。次回の日本ツアーは2004年2月、バンベルグ交響楽団と行う。

音楽、学業、空手に勤しみ、また人間性を高めるためにも、音楽を通じて社会活動にも意欲的に参加している。去る9月11日、ニューヨーク市によるワールド・トレードセンター鎮魂式に於いて、演奏を捧げたのもその一つである。これらの経緯の一部は、毎年フジテレビのドキュメンタリー「五嶋龍のオデッセイ」で放送され、来年は9回目を迎える。